

第38回宇宙開発委員会（定例会議）

議 事 次 第

1. 日 時 平成8年11月20日（水）
 14:00～16:00
2. 場 所 委員会会議室
3. 議 題 (1) 前回議事要旨の確認について
 (2) M-Vロケット1号機による打ち上げ等について
 (3) 宇宙実験・観測フリーフライヤ(SFU)計画に係る開発結果の
 評価について
 (4) 宇宙実験・観測フリーフライヤ(SFU)実験の成果について
 (5) ロシア無人火星探査機の落下について
4. 資 料 委38-1 第37回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨（案）
 委38-2-1 平成8年度第2次観測ロケット実験計画概要（案）
 委38-2-2 M-Vロケット1号機/MUSES-Bの打ち上げ計画書
 （案）
 委38-3 宇宙実験・観測フリーフライヤ(SFU)計画に係る開発
 結果の評価について（報告）（案）
 委38-4 宇宙実験・観測フリーフライヤ(SFU)の成果
 委38-5 ロシア無人火星探査機の落下について

関係省庁

郵政大臣官房技術総括審議官	甕 昭 男 (代理)
通商産業省機械情報産業局次長	河 野 博 文 (")
運輸大臣官房技術総括審議官	栢 原 英 郎 (")

事務局

科学技術庁研究開発局長	加 藤 康 宏
科学技術庁研究開発局宇宙政策課長	千 葉 貢 他

6. 議事

(1) 議事要旨の確認について

修文された第34回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨（資料委37-1-1）が報告された。また、第35回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨（案）（資料委37-1-2）、第36回宇宙開発委員会（臨時会議）議事要旨（案）（資料委37-1-3）が確認された。

(2) 宇宙産業実態調査報告書について

（社）日本航空宇宙工業会 穂坂常務理事及び石井技術部部長より、資料委37-2に基づき、（社）日本航空宇宙工業会が実施した平成7年度の我が国の宇宙産業実態調査について、我が国の宇宙産業の売上高及び輸出入高、研究開発費、設備投資額等の集計結果の説明があった。

これに関し、委員より、調査結果の実態反映度、「サービス提供」分野の調査方法、日本と諸外国との売上高の比較、航空機分野の売上高等について質問があった。

(3) 「HETE」の打上げ結果について

理化学研究所宇宙放射線研究室 松岡主任研究官より、資料委37-3に基づき、11月4日にNASAのペガサスロケットにより打ち上げられた「HETE」（高エネルギー・トランジェント天体観測衛星）の打上げ結果について、軌道投入は成功したが、ロケットの3段目から衛星が分離できなかつ

たこと、当初HETEからの微弱電波が観測されたことにより、HETE衛星の基本機能の一部は正常に作動していることが確認されたが、その後微弱電波は現在は確認できなくなったこと等の説明があった。

これに関し、委員より、ロケットへの衛星の取付け方、ペガサスロケットの打上げ実績、HETE衛星の再打上げの可能性、手段及び経費等に関して質問があった。

(4) 科学技術と社会に関する懇談会報告書について

科学技術庁科学技術振興局科学技術情報課 片岡課長補佐より、資料委37-4に基づき、科学技術に関する社会の理解を一層促進するための情報の発信のあり方について検討することを目的とし、科学技術庁長官の私的懇談会として開催された「科学技術と社会に関する懇談会」における検討結果について、科学技術と社会との架け橋となる「インタープリター」の必要性、情報の発信者のあり方、発信内容・発信方法、受信側の対策、学者及び国民と科学技術情報との関わり方、また、それらについて国において考えられる具体的方策の説明があった。

これに関し、委員より、インタープリターとしてのサイエンスライターの活用方法、広報のための予算、科学技術情報の発信の現状及び米国との比較、各国の本問題への取り組み方、科学館の活用状況等について質問があった。

以上